

今月の重点管理目標－荷物事故の防止－

1

手抜き養生は 荷崩れ事故を誘発

年末の繁忙期が訪れる前に荷の養生の重要性について再認識しておきましょう。養生が甘いと、長距離の運行では荷崩れを起こし荷物の破損事故を起こしたり、荷が路上に転落する恐れがあります。



●首都高速、阪神高速だけでも
年間約5万件の落下物が!

落下物ワースト3 (平成26年 NEXCO調べ)

1. プラスチック・ビニール・布類
(毛布/シート類)
2. 自動車部品類 (タイヤ、自動車付属品等)
3. 木材類 (角材、ベニヤ等)

阪神高速年間約2万5千件 首都高速年間約2万5千件
(H26年度)

ここに
注目!

落下物は
落とし主の責任です。
毛布、シート類、ベニヤ、
養生材の転落にも
注意しましょう。

事故事例
に学ぶ

積載物が落下し対向車の乗員2名が死亡

2012年、広島県の国道で大型トレーラーの荷台から鉄板15枚が落下し乗用車を直撃、乗用車の男性2名が死亡しました。鉄板30枚をワイヤ1本で縛っただけの不適切な積載方法で運転、重量車の無許可運行もあり、運転者だけでなく運送会社の社長も有罪判決を受けました。



教訓

積付けの強度計算等を徹底し
正しい積載・固縛方法を守る

有罪

2

早めの点検で荷崩れ、 転落事故を防ごう

しっかり固縛したつもりでも、路面状態が悪いと震度7に近い振動が車体にかかり、長距離走行中に荷の固縛が緩むことがあります。定期的にロープなどの固縛状況や荷の状態をチェックしましょう



高速道路は2時間ごと、一般道路は4時間ごとに点検

3

出発前に積荷の高さと 高さ制限を意識しよう

積荷の高さを意識していないと、積荷や車体を鉄道の高架に当てたり、荷主の構内で設備配管等を破損させる危険があります。出発前に積荷や車体の高さを意識するように習慣づけ、高さ制限のある通行禁止経路について再認識しておきましょう。



事故防止の ヒント

アオリ乗り、 ヘリ歩きは厳禁

荷役作業中、荷台のアオリの上に乗ったり荷を整えるため狭いヘリの上を歩いたりすると、転落事故を起こす危険があります。移動式プラットフォーム等を使用して、安全に作業させましょう。

